

水土里ネットの和

発行：水土里ネット和歌山（和歌山県土連） 和歌山市雑賀屋町1番地

会長：二階俊博 TEL：073-432-2567 FAX：073-433-1490



全国土地改良大会（沖縄大会）の様子

主な内容（CONTENTS）

○新年のご挨拶	2
二階俊博水土里ネット和歌山会長	
進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問	
宮崎雅夫全国水土里ネット会長会議顧問	
○土地改良区職員研修会	5
○全国農業農村整備の集い(10月)	6
○令和5年度農業農村整備予算の確保に向けた提案	7
○土地改良区役職員研修会	8
○全国土地改良大会（沖縄大会）	9
○土地改良施設の持つ役割を地域住民に啓発	10
○令和4年度補正、令和5年度当初予算の概算決定	11
○第2回和歌山県土地改良事業団体連合会 監事会、理事会の開催	12
○水土里ネット和歌山からのお知らせ	12

新年に当たって



全国土地改良事業団体連合会
和歌山県土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和5年の年頭に当たり、和歌山県土地改良事業団体連語会の関係の皆様、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、様々な感染対策を講じた上で、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立を図るウイズコロナの方針が示されました。皆様におかれましては、「新しい生活様式」を日常生活に取り入れ、引き続き、感染拡大防止に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

また、昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあり、一部の国では穀物の輸出規制が実施されるなど、食料流通の機能不全や食料価格の高騰など食料安全保障をめぐる負の影響が国際社会に生じました。

国内では、農業者の高齢化や減少により、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、燃料価格の上昇に伴う農事用電力料金の急激な高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような国内外の情勢にかかわらず、食料安全保障の観点から、日本の食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

岸田内閣は、こうした状況を踏まえて「食料・農業・農村基本法」の見直しに着手しました。この検討の動きを注視しつつ、我々土地改良関係者は、農業・農村の喫緊の課題に積極的に取り組んでいく必要があります。

令和5年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,457億円を確保することができました。この結果、令和4年度の補正予算を含めると6,134億円となります。

また、令和4年度補正予算において燃料価格の上昇に伴う土地改良区の電気代高騰分の7割を支援する仕組みが導入されました。

御尽力をいただいた当局をはじめ関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、我々土地改良団体における喫緊の重要課題となっています。

将来の組織体制の強化・発展のためにも女性参画を進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

さて、私は全国土地改良事業団体連合会の会長に就任以来「闘う土地改良」を掲げ、組織一体となって闘ってまいりました。昨年の参議院選挙においては、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員が見事に当選を果たされました。

宮崎雅夫参議院議員と共に「車の両輪」となって、全国を駆け回り、皆さんの声を聞き、土地改良予算の確保だけでなく、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声が国会に届くよう、二人の活動の支援をお願いいたします。

輝かしい年の初めに当たり、本年も和歌山県の各地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が和歌山県の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます、私の新年の御挨拶といたします。

新年のご挨拶



全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。和歌山県土地改良事業団体連合会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいりる覚悟です。本年も何卒宜しくお願い致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和4年度補正予算で1,677億円（TPP等対策：760億円、国土強靱化5か年加速化対策：817億円、食料安全保障対策：100億円）が措置され、また、令和5年度当初予算政府原案は昨年度より4億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、本年度と同様に地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が続く中、2月のロシアのウクライナへの侵略により、エネルギー価格の上昇、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰、円安の急激な進行による物価の上昇等があり、これらは国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じてきたところですが、これらを含め物価高は本年も続くと思われまます。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいりる覚悟です。

昨年7月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靱なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識しております。

また、昨年6月の参議院決算委員会で、私は政治信条である「食料安全保障」について岸田総理に対し質問しました。総理からは「食料の安定供給の確保は国家の国民に対する最も基本的な責務の一つ。新しい資本主義のビジョンの下、食料安全保障を強化するべく政府一体となって取り組んでいきたい」との答弁を頂きました。

私は、「食料供給力」（国内生産力、輸入力、備蓄）の中で弱体化している国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望を持って推進していくことが重要です。このため、今後も予算を安定的に確保するとともに、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、目に見える成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げます。新年のご挨拶にさせていただきます。

新年のご挨拶



全国水士里ネット会長会議顧問
参議院議員 宮崎雅夫

新年明けましておめでとうございます。和歌山県土地改良事業団体連合会会員各位ならびに関係の皆様へ謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より地域の水と土を守り、農業の発展や農山村の活性化に向け、農業農村整備事業の円滑な推進や土地改良施設等の適切な管理ならびに土地改良区の適正な運営にご尽力いただいておりますことに最大の敬意を表しますとともに、私の議員活動に対し多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、昨年8月まで農林水産大臣政務官を勤めさせていただき、その間、皆様方から多くのご要請等をお受けし、それぞれの課題解決に向けて一所懸命に取り組みさせていただきました。これらのご要請の事項を含め、昨年12月に成立した令和4年度第2次補正予算では、農林水産関係で総額8,206億円、うち、農業農村整備事業関係については、1,677億円が措置され、この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料金高騰対策として、増高分の7割を支援する新たな制度も含まれています。また、令和5年度当初予算の概算決定額において、前年を上回る4,457億円が閣議決定され、合計額で6,134億円となる見込みとなりました。これから行われる国会での議論において、しっかりと確保できるよう一所懸命に努めてまいります。

さらに、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、そうした中でも、我が国食料の安定供給を図る食料安全保障の確立に向けた取り組みが重要課題となっています。国内の食料生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という大切な役割を土地改良が担っており、農業従事者数の減少傾向にも対応するスマート農業を含む土地改良の推進や農業農村関係人口の拡大の取り組みなどを含め、しっかりと対応していくことが重要です。

私も、卯年の今年は年男を迎えますので、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりと伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の要請と実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいります決意ですので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、和歌山県土地改良事業団体連合会ならびに関係機関の益々のご発展と、皆様方のご健勝を心より祈念申しあげ私の新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます

土地改良区連絡協議会職員研修会

令和4年10月14日に有田川土地改良区で、県内20土地改良区と、和歌山県、県土連の職員40名が参加し、研修会が開催されました。

主催の土地改良区連絡協議会小路推進幹事長と来賓の星田有田川土地改良区理事長のあいさつの後、有田川土地改良区の井口課長から改良区の受益地や施設の概要、施設管理体制など改良区業務の状況と、現在取り組んでいる施設の遠隔監視について、システムの基本的な解説や、有田川土地改良区での導入状況などについて説明がありました。



昼食を挟んだ後、県土連の榎本事務局次長からGISの特徴などについて説明の後、和歌山県水土里情報システムの運用状況の紹介がありました。これに関連して、再び有田川土地改良区井口課長から、今後各土地改良区で課題となる、各種図面・台帳等の電子化への取り組みに必要な、基本的な用語やシステムについて解説されました。

その後、有田川土地改良区が管理する「保田頭首工」の現地見学を行い、改良区から頭首工の概要や管理状況について説明を受けた後、有田川の上に架かる管理橋を渡り、ゲート巻き上げ機などを見学することができました。参加者の皆さんには貴重な経験になったと思います。



全国農業農村整備の集い（10月）



令和4年10月20日（木）、「全国農業農村整備の集い」が、シェーンバハ・サポーで開催されました。全国の農業農村整備関係者約800名が参集し、和歌山県からも、岸本紀の川市長、西岡広川町長、奥田上富田町長、山口北山村長をはじめ27名が参加しました。

大会では、二階会長の主催あいさつの後、全国水土里ネット女性の会 初代会長をつとめた、山梨県土連の萩原丈巳さんへ感謝状の授与がありました。

さらに、藤木眞也農林水産大臣政務官、進藤金日子会長会議顧問など7名の方々から祝辞がありました。

その後、福井県土連の野坂専務理事から9項目の要請内容が盛り込んだ要請文の提案があり、全会一致で採択されました。また、胆沢平野土地改良区の及川正和理事長から「女性理事の登用について」の事例発表、宮崎雅夫会長会議顧問から情勢報告などが行われ、終了しました。

集い終了後、関係省庁へ採択された要請の要請活動が行われました。



令和5 年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動

令和4年10月20日（木）に農林水産省、二階会長、県選出国會議員に対し、令和5年度の予算確保等について、本会並びにため池保全整備連絡協議会、国営総合農地防災事業推進協議会から、下記の内容で提案活動を行いました。

- 提案は
- ①農業農村整備事業推進に必要な予算の確保、国土強靱化予算の確保
 - ②国営総合農地防災事業和歌山平野地区の推進、南紀用水2期地区の早期着手
 - ③小規模なため池の改修方法の技術的支援や管理・監視体制の強化のための支援策の検討
 - ④機能支払交付金制度の推進交付金及び資源向上支払（長寿命化）の予算確保

について行いました。

午前中、農林水産省において農林水産大臣はじめ政務3役に、また農村振興局と大臣官房の幹部、関係課への提案を行いました。国からの要請により少人数での活動とし、県土連副会長の中山有田川町長、岸本紀の川市長の他、県・市・土連の職員計7名で提案を行いました。農村振興局次長、整備部長には面会の上、和歌山県の現状や提案の趣旨などの説明を行いました。

集いに参加した後、自民党本部5Fの国土強靱化推進本部において、二階会長と鶴保会長代行に対して、提案を行いました。集いに参加した土地改良区の皆さんも加わり20名余りが出席しました。

提案の趣旨の説明後、二階会長、鶴保会長代行と参加者の皆さんで懇談を行いました。

その後、衆参両院の議員会館に向かい、県選出国會議員及び、進藤、宮崎両参議院議員事務所を訪問し、提案活動を行いました。



農村振興局次長に提案



自民党本部 国土強靱化推進本部

土地改良区役職員研修会

令和4年11月8～9日、県内18土地改良区並びに、和歌山県、水土里ネット和歌山の職員39名が参加し、研修会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で2年間中止になり、今回は久しぶりの開催となりました。

最初に、かつらぎ町天野で主催の土地改良区連絡協議会永長会長等のあいさつの後、天野土地改良区から地域の状況や改良区の管理する施設の紹介、日頃の水管理の苦労や工夫などについて紹介があり



りました。また、丹生都比売神社で、天野地区の歴史や高野山との関わりなど説明を受けました。

その後、高野町に移動し農林水産省土地改良企画課の鈴木利用調整係から「土地改良区を巡る動向について」として、国の施策等の説明があり、高野町の平野町長と観光振興課の民農主事から、高野町の概要と観光や農業など振興施策の取り組みについて説明をいただきました。

当日は会場となった福智院の宿坊に宿泊し意見交換会が開催され、久しぶりに参加者の皆さんで懇親を深めました。また、翌朝は朝のお勤めに参加したり、山内を散策するなど思い思いに高野山を楽しみました。

その後、バスでみなべ町へ移動し、南紀用水土地改良区から世界農業遺産などみなべ・田辺地域の概要と土地改良区の紹介、小水力発電や太陽光発電や中長期的な施設更新に向けた取り組み等について説明がありました。

さらに、御坊市へ移動し名田周辺土地改良区から名田地域の農業や改良区の概要と施設の紹介や、管路の腐食対策、太陽光発電、濁水対策等について説明がありました。また、スターチスを栽培するハウスの中を見学させていただきました。

いずれの研修においても、参加者の皆さんからたくさんの質問があり、熱心な意見交換が行われました。



新型コロナウイルス感染症の状況はまだ予断を許せませんが、来年度には以前のように県外での先進地研修にも行けるようになると良いと思います。

全国土地改良大会（沖縄大会）

今年の全国土地改良大会は、沖縄本土復帰50周年となる節目であり『水土里の拓くみるく世を鳴らしとぅゆまし守禮の邦から』をテーマに、11月22日～23日に沖縄県で開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響で一昨年は中止、昨年の群馬大会はオンライン開催となったため、会場で行う大会は3年ぶりの開催となりました。全国の水士里ネット関係者約2,500人が参加し、沖縄市の沖縄アリーナで盛況に行われました。県内からも43名とたくさんの皆さんが参加しました。

参加に当たっては、3回のワクチン接種や陰性証明が求められ、会場では基本的な感染対策の上、入場時に体温測定を行い、間隔を開けた配席とするなど、徹底した感染対策がとられました。

11月22日の式典では、オープニングセレモニーや沖縄県の紹介の後、沖縄県土連会長による開会あいさつや二階全土連会長の主催者あいさつがあり、沖縄県知事をはじめとする来賓の祝辞が行われました。

その後、土地改良事業功労者表彰が行われ、全国で67名の方が受賞されました。和歌山県では、藤崎井土地改良区の横地理事長が農村振興局長表彰を、川辺町周辺土地改良区の藏光理事長が全国土地改良事業団体連行会長表彰を受賞されました。おめでとうございます。

また、農村振興局阿部次長の農業農村整備に関する基調講演並びに、沖縄県の大峰ファーム代表と瀬名土地改良区理事長から、地下ダムを契機として始めたマンゴー栽培や返還された軍用地の優良農地への改良など沖縄県での取り組みの報告がありました。

最後に、沖縄県土連の島袋朝気氏、知念智子氏より、持続的な農業・農村を可能とするため「みず」「つち」「さと」を守り、引き継いで行くことを、沖縄から全国へ向け大会宣言がされ、次期開催の福井県に引き継がれました。

翌23日には、雨の中ではありませんでしたが、読谷村の長浜ダムを現地見学しました。ダムの建設と合わせ、前日の事例発表の地区でもある読谷村の軍用施設を畑総事業により農地整備し、特産品のサトウキビや紅イモ、キク、ニンジンを生産する優良農地に変えた事例を紹介いただきました。

その後、再建工事中の首里城を見学しました。

来年度の全国大会は、福井県で開催されます。たくさんの皆様のご参加をお願いいたします。



土地改良施設の持つ役割を地域住民に啓発

水土里ネット和歌山では、県から国営造成施設管理体制整備事業の実施受託を受け、農業水路など土地改良施設が持つ、水資源の涵養や洪水防止、防火用水など様々な多面的機能を地域の皆さんに広くお知らせし、地域住民の理解と連携のもと施設を適正に管理していく体制を強化するよう、啓発事業を行っています。

この事業は、昭和60年から続けていますが、ここ数年は新型コロナウイルスの影響により満足な活動ができませんでした。今年度は県内4カ所で啓発を行うことにしています。

啓発は、各種イベント時や駅前などたくさんの方が集まる場所や機会を利用し、「農業用水の役割」「地域の農業用水路の概要や歴史」「水路の投棄されるゴミの問題」などのパネルを展示するとともに、パンフレットや記念品を配布し住民の皆さんに少しでも興味を持ってもらい、理解が進むように行っています。今年度は、地元の改良区の皆さんや振興局の協力を得ながら啓発を行っており、岩出駅と橋本駅の駅前と橋本市の「まっせはしもと 柿祭り」にブースを設置し啓発を行いました。当日はたくさんの皆さんに会場いただき、質問されるなど興味を持っていただきました。また、2月にはみなべ町で「UMEフェスタ in 梅の里みなべ2023」にも同様の活動を行う予定にしています。皆さんにもご来場いただくようお願いいたします。

農家の高齢化が進み、混住化も振興しており、土地改良施設の管理は年々難しくなっています。今後は、地域住民の皆さんの理解と協力が不可欠なものとなりますので、引き続き啓発に努めていきます



令和4年度補正、令和5年度当初予算の概算決定

令和4年12月23日に令和5年度予算政府案が閣議決定されました。一般会計総額は114兆3,812億円と4年度当初予算比で0.06%増え、11年連続で過去最大を更新しました。

土地改良に関しては、表のとおり、対前年100.1%の当初予算が計上され、補正予算を合わせると6,134億円が確保されました。補正予算の総額は前年を少し下回りましたが、これはR3年度から始まった防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化計画がR3,R4年度に前倒しで予算が計上されたためR5年度は減額されたことによるものです。

また、主な新規施策は、水田の畑地化を進めるための農家負担軽減制度、農業水利施設の省エネ化への支援、突発事故に備えたスペア資材の調達支援、ため池廃止の際の下流水路整備への支援拡充、など予定されています。

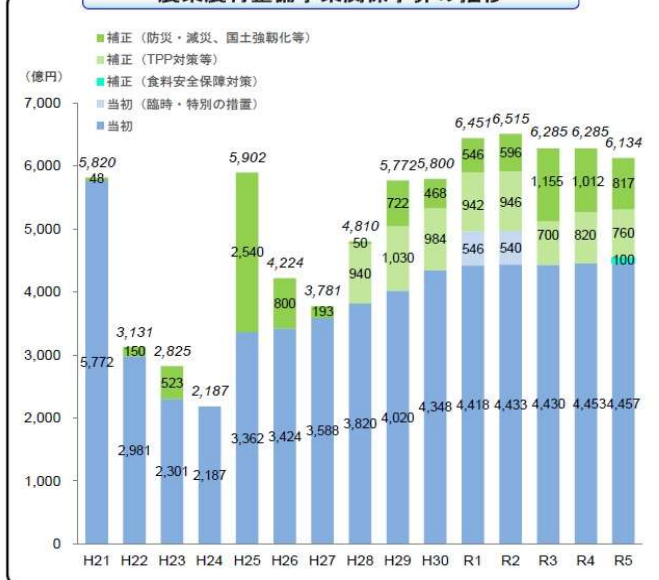
令和5年度 農業農村整備事業関係予算 概算決定

- 農業農村整備事業関係予算の令和5年度当初予算は4,457億円(対前年度比100.1%)
- また、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策及びTPP対策、食料安全保障対策として、令和4年度補正予算において1,677億円を計上し、これらの総額は6,134億円

令和5年度予算等

	(単位:億円)			
	令和4年度 当初予算	令和5年度 当初予算	令和4年度 補正予算	合計
		A	B	A+B
農業農村整備事業(公共)	3,321	3,323 (100.1%)	1,677	5,000
農業農村整備関連事業(非公共) <small>農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 畑作等促進整備事業、農山漁村振興交付金</small>	540	543 (100.6%)	-	543
農山漁村地域整備交付金(公共) (農業農村整備分)	591	591 (100.0%)	-	591
計	4,453	4,457 (100.1%)	1,677	6,134

農業農村整備事業関係予算の推移



注：計数は四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

第2 回和歌山県土連 監事会・理事会の開催

令和4年度第2回監事会を12月21日(水)に、第2回理事会を12月27日(火)にアバローム紀の国会議室で開催しました。

監事会では、監事全員が出席し、理事との契約についてこの会の代表に関する事項、令和4年度業務・会計・財産の中間監査、令和4年度の会計収支補正予算の承認についての提案に対してご意見をいただき、また、理事会では、15名の理事のうち12名の出席のもと、鶴保会長代行の開会あいさつの後、県の農業農村整備課阪本副課長から令和5年度土地改良



改良予算の概算要求内容について情報提供いただき、議事では、令和4年度会計中間執行状況報告について、令和4年度会計収支補正予算について審議され、すべて承認いただきました。

水土里ネット和歌山からのお知らせ

農業水路等長寿命化・防災減災事業の拡充(ため池廃止に伴う下流水路の整備)

防災重点ため池の廃止にあたり、池下流の排水路整備について、定額助成の上限が引き上げられます。



下流水路の整備

【定額助成額の上限(拡充は赤字部分)】

堤高	通常	特認(下流水路の整備延長に応じ上限額を設定)		
		20m未満	20m以上 500m未満	500m以上
5m未満	1,000万円	3,000万円	6,000万円	8,000万円
5m以上10m未満	2,000万円	4,000万円	7,000万円	9,000万円
10m以上	3,000万円	6,000万円	9,000万円	11,000万円

※現行の助成額の範囲内においても下流水路の整備は実施可能

P11で紹介したとおり、令和5年度予算の概算決定に盛り込まれました。

【編集後記】

令和5年度当初予算の概算決定が発表されました。補正予算と合わせ令和4年度と同等の予算が確保される見通しです。また、上記のように定額助成など各種の拡充事項が盛り込まれています。県土連からも必要な情報を提供していきますので、会員の皆さまにおかれましては活用のご検討をお願いします。不明な点、困りごと等あればお気軽にご相談ください。